

第6学年 国語科学習指導案

日 時 : 平成25年11月12日(火) 3校時
児 童 : 6年1組 男25名 女16名 計41名

【研究主題】 ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～各教科等の指導の充実・深化をとおしながら～

本単元では、まず『鳥獣戯画』を読むという学習材で、絵と文章とを対照しながら読む活動を通して、筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかをとらえるとともに、絵を読み解いていく筆者のものの見方を学び、それに対する自分の考えをもたせる。

また、『鳥獣戯画』を読むで学んだ「根拠をもとに考えを述べる」ということを、「この絵、わたしはこう見る」で実践する。教科書にある絵画や教師が提示した絵画を、様々な観点をよりどころとしながら分析的に向き合い、『鳥獣戯画』を読むで学んだこと(着眼点・評価語彙・表現の工夫)を生かし、自らの感じ方やものの見方を解説文として表現させる。

書く活動の中では、相互交流の場を意図的に設定することで、同じ観点に着目しても感じ方やものの見方は様々であるという点や、意味付けの仕方にその人らしさが表れている点に着目させたい。そのような活動を通して、互いの個性を認め合うことの大切さや違った考えをもつ仲間とつながることで自分のものの見方も広がるということに気付かせたい。仲間を認め、仲間から認められるという経験を通して、上辺だけでなく本当の意味で仲間を大切にできる児童を育てていきたい。

1 単元名 ～解説文を読み、ものの見方を広げ、

絵から読み取ったこと、感じたことを解説文で表現しよう。～

教材名 中心学習材 『鳥獣戯画』を読む「この絵、わたしはこう見る」

補助学習材 「わくわく美術館」「こどもアートブック」「鳥獣戯画絵巻物」

2 単元の構想

(1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

○目 標 (B書くこと C読むこと)

第5学年及び第6学年の目標及び内容

(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。【B書くこと】

○内 容

①指導事項 ②言語活動例 □本単元を貫く言語活動

(1) 書くことの能力を育てるために、次の事項について指導する。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

(2) (1)の示す事項については、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。

ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

考えの根拠(着眼点)を明確にし、表現を工夫して解説文を書く。

○学習の系統

<書くこと ウ記述>

第1・2学年

語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

第3・4学年

書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

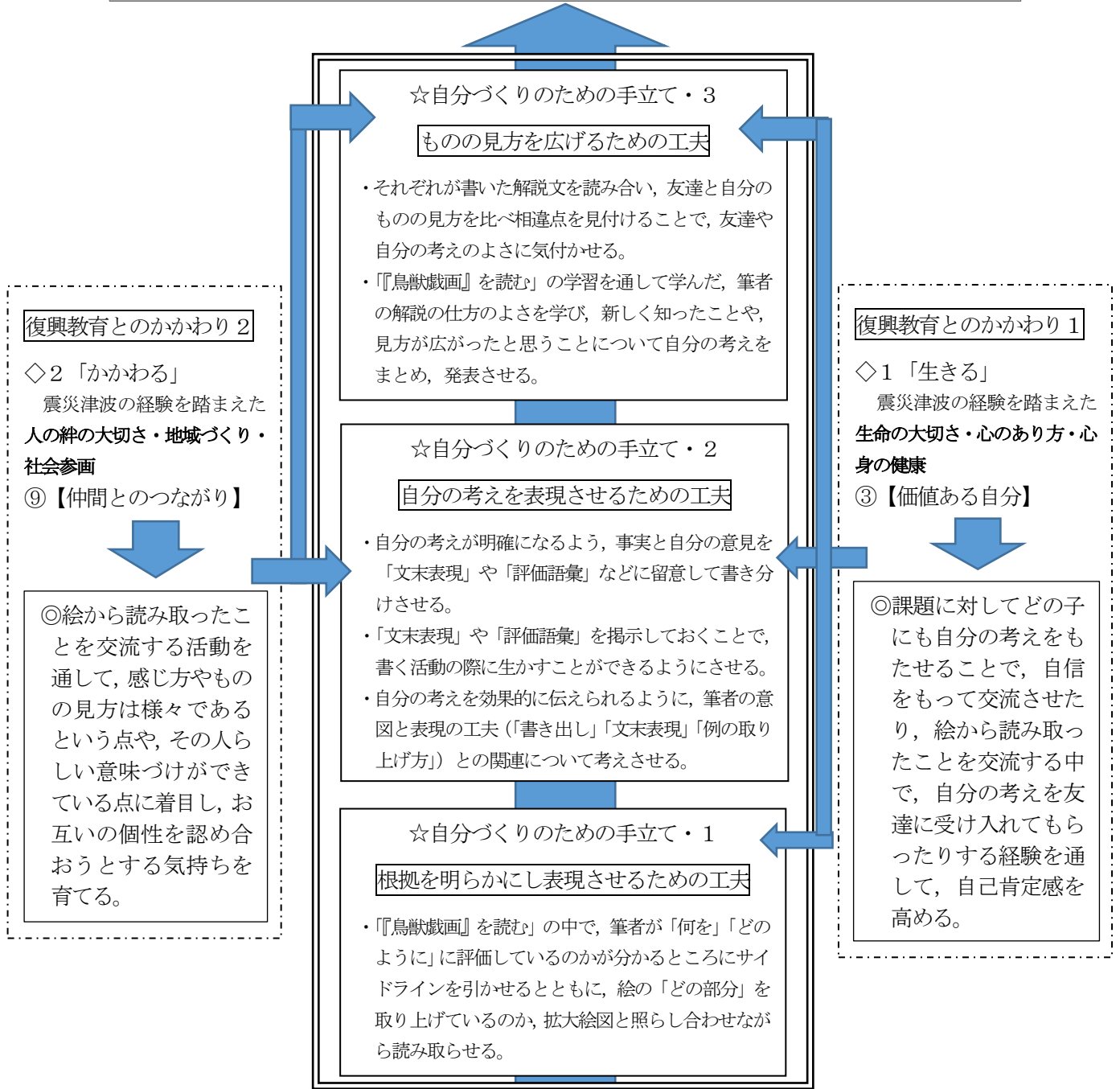
第5・6学年

事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

(2) 単元構想図

◎本校の復興に向かう合言葉 = 「自分から」

《本単元で目指す子どもの姿》
【自分づくり】
根拠を明らかにし、自分の考えを表現（記述）するとともに、ものの見方を広げられる子



【児童の実態】

- 「平和について考える」では、意見文を書いたりスピーチをしたりする活動を経験している。
- どこからそう感じたのか（根拠）を明確にして、感想を書くことができる児童が少ない。
- 全体の前で自分の考えを述べることに抵抗を感じている児童が少なくない。
- 書く活動においては、書き出しに困ったり何を書けばいいのか迷ったりする児童が見られる。
- 語彙が乏しく自分の思いを表現するのが苦手な児童が多い。

【学習材について】

『鳥獣戯画』を読むは、絵とそれに対する解説と解釈、評価が述べられた解説・批評的な特徴をもった説明的文章である。筆者の絵に対する解釈と評価が中心に述べられているので、これまでの説明的文章で明確に表れていた「筆者の考え方」よりも「筆者のものの見方」をとらえることに適している。子どもたちは自分なりの絵の解釈と比較しながら読むことができるので、ものの見方を広げることにもつながっていくことができる。また、筆者がどの部分に目をつけ、そこからどう感じ、それをどのような言葉で表現しているのかを丁寧に読み取っていくことで、根拠を明確にして考えを述べることの重要性に気付くことができると考える。

(3) 単元の目標

<国語への関心・意欲・態度>

○絵に興味をもち、進んで教材文を読もうとしたり、絵から読み取ったことを伝え合おうとしたりすることができる。

<書くこと>

○絵から読み取ったことや感じたことを、事実と感想、意見などを区別するとともに、作品の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。

○絵について感じたことの中から書くことを決め、全体を見通して事柄を整理することができる。

<読むこと>

○事実と感想・意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。

○文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

○文章表現に着目して読み、語句と語句との関係を捉えることができる。

3 指導と評価の計画（10時間扱い）

次	時	主な学習活動	国語科のねらい	評価規準（評価方法）	復興教育のねらい
第一 次	1	・セリフの無い漫画の内容を想像し、それを交流することを通して、漫画やアニメの祖と言われる『鳥獣戯画』や解説文を読むことへの関心をもつ。	○非連続テキストを解釈する楽しさに気づき、中心学習材や解説文を読むことへの関心を高める。	【関】 中心学習材や解説文を読むことへの関心を高めている。 (発言, ワークシート)	
	2	・P133の絵を見て感じたことをノートにまとめ、筆者のものの見方や感じ方との違いに気付く。 ・学習材を一読し、「筆者のものの見方をとらえ、ものの見方を広げる」という学習課題を設定する。 ・自分で解説文を書くという単元のゴールを示すことで、解説文の書き方を学習する必要感を高める。	○絵を最初に見た自分の感じ方と文章を比べて読むことで、筆者のものの見方に対して関心をもつことができる。	【関】 P133の絵についての自分の感じ方と冒頭の文章を比べながら興味をもって文章を読み、筆者のものの見方や感じ方について感想を述べている。 (発言, ワークシート)	○絵を見て自分なりの考えをもつことができる。 (学習シート) 「生きる」 ③【価値ある自分】
第二 次	3	・P140「表現に着目して読もう」に示された観点に沿って、文章と絵を照らし合わせながら読む。 ・絵に対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめ発表する。	○筆者が、絵の描き方について、どんな感じ方や評価をしているか、絵をどう解釈しているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。	【読】 筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵をどう評価したり解釈したりしているかについて、絵と文章を対照させながら読み取っている。 (線の引き方, 囲み)	
	4	・絵巻物を筆者がどう評価しているかを読み取る。 ・絵巻物や絵そのものに対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。 ・これまで出てきた「評価の言葉」を確認し、一覧にまとめる。	○筆者が、絵巻物や絵そのものについて、どのような説明をし、それをどう評価しているかを読み取ることができる。	【読】 絵巻物の説明部分とそれに対する評価の部分を読み分け、筆者がどのように絵巻物を評価しているかについて、読み取っている。 (線の引き方, 囲み)	
	5	・考えを効果的に伝えるための「書き出し」「文末表現」「言葉の使い方(言い回し)」などの工夫点を整理する。 ・学習を通して新しく知ったことや見方が広がったと思うことについて、自分の考えをまとめ、発表し合う。	○考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について考えることができる。	【読】 表現や構成の工夫について、その効果や筆者の意図を考えている。 (ワークシート) 【関】 学習した価値を自覚している。 (ふり返りの記述)	

第 三 次	6	<ul style="list-style-type: none"> 『風神雷神図』を見ながら感想を発表し合い、解説文の書き方を学習する見直しをもつ。 『風神雷神図』に対して、着眼点や教科書の観点を基に、どんな問いが立てられるのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○着眼点や観点を基に、絵に対して問いを立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関】絵画に興味をもち、着眼点や提示された観点を基に、自分なりに問いを立て、絵から情報を読み取ろうとしている。(学習シート) 	
	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で立てた問いを基に、自問自答する形で絵から想像したこと・感じたこと、絵のすばらしいところを記入する。 ・観点ごとに交流することを通して、友達と自分のものの見方の共通点や相違点に気付く、自分の表現の参考にする。 <p>※時間が残っている場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P142の下の絵(3人の楽士ピカソ)を、自力で読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」を立てながら、絵から想像したこと・感じたことを書き出すことができる。 ○お互いの見方を交流することを通して、自分のものの見方を広げ、友達のよさを自分の表現の参考にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【書】お互いの見方を交流することを通して、自分との相違点に着目して、自分のものの見方を広げ、友達のよさを自分の表現の参考にしている。(発言・ふり返りの記述) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ものの見方の多様性や友達の考えのよさに気付くことができる。(ふり返りの記述) 「生きる」 ③【価値ある自分】「かわる」 ⑨【仲間とのつながり】
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・解説文を書く絵を決める。(これまで見てきた絵でもよいことにし、児童の解説文を書くことへの意欲面に配慮する。) ・P144・145の書き方例や二次で学習した『鳥獣戯画』を読むから、自分の見方を伝えるための効果的な表現の工夫を確認する。(解説文の効果的な書き方) ・絵から感じたこと、読み取ったことの中で、最も伝えたいことを決める。それを中心に、詳しく書くことや簡単に書くことの見当をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○解説文の効果的な書き方を理解することができる。 ○絵から感じたことの中から書きたいことの中から決め、全体を見通して書く事柄を整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【書】絵から感じたことの中から書きたいことの中から決め、全体を見通して書く事柄を整理しようとしている。(学習シート) 【関】解説文の効果的な書き方を理解している。(発言、学習シート) 	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ作品の解説文を書く。 ・書きあがった文章を読み直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵のすばらしいところ(事実)と想像したこと・感じたことを書き分けることができる。 ○記述例を参考にして表現の効果や工夫を考えて、文章を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【書】絵のすばらしいところと想像したこと・感じたことを書き分けている。(書いた文章) 【書】表現の効果を考えながら、文章の中で「読み取ったことや感じたことを表す表現」や「見る場所や見る方法を表す言葉」を使っている。(書いた文章) 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで解説文を互いに読み合い、「絵の見方のよさ」「表現のよさ」の2点について相互評価する。 ・再度絵をじっくり見て、友達の見方のよさを再確認したり、表現の仕方よさをメモしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に気付く、ものの見方や表現方法を広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【書】友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に気付いている。(ノート) 【書】解説文を読み合い、絵の見方のよさや表現のよさに着目して助言し合うことで、ものの見方や表現方法を広げている。(ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ものの見方の多様性や友達の考えのよさに気付くことができる。(発言・ふり返りの記述) 「生きる」 ③【価値ある自分】「かわる」 ⑨【仲間とのつながり】

4 本時の学習について

(1) 目標

○絵から想像したこと・感じたことを交流することを通して、友達のものを見方のよさに気付き、自分の表現の参考にすることができる。

(2) 評価規準

書く (カ)	お互いを見方を交流することを通して、自分が気付かなかった点に注目し、友達のものを見方を自分の表現に取り入れている。 (発言・ワークシート)
--------	--

＜努力を要する児童への支援＞
絵の着眼点を黒板に明示し、自分がどこに目をつけたのかを意識させる。
また、自分が付箋紙を貼った問いに注目させ、自分との相違点を見付けさせることで、友達のよさに気付かせる。

(3) 国語科の視点、復興教育の視点からの手立て

＜国語科の視点から＞	
ア	絵に対する問いをもとに絵を読み取らせることで、どの児童も自分の考えがもてるようにする。 【自分の考えを表現させるための工夫】
イ	＜読み取ったことや感じたことを表す表現＞を再確認することで、自分の見方を効果的に表現できるようにさせる。 【自分の考えを表現させるための工夫】
ウ	お互いの考えを交流する際には、ICTを活用し、どこに着目したのかを明確にさせる。 【根拠を明らかにし表現させるための工夫】
エ	全員が考える共通の問いを一つ指定し読み取ったことを全体で話し合うことで、多様な見方ができることに気付かせる。 【もの見方を広げるための工夫】
＜復興教育【自分づくり】の視点から＞	
ア	絵から読み取る活動の際に、自分の考えがもてず困っている児童が多い場合は、ペアやグループでの交流を設け、友達の考えを参考に自分の考えをもてるようにさせる。 ③【価値ある自分】
イ	絵から読み取ったことを交流することを通して、自分と友達とのもの見方の相違点に着目させ、もの見方の多様性や友達の考えのよさに気付かせる。 ⑨【仲間とのつながり】

(4) 展開

段階	学習活動 (○主発問☆補助発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ 5分	1 前時の学習を想起し、解説文を書くために必要な事柄を集めるための方法について確認する。 ○絵を読み取るためのコツとは何でしたか。 ・「問い」を立てながら観察する。 ○どんな問いを使って読み取っていくのか確認しましょう。 2 本時の学習課題を確認する。 ○よりよい解説文を書くため、絵から読み取ったことを交流することを通して、自分のもの見方を広げよう。	○前時までの掲示を利用し、これまでの学習を想起させる。 ○児童が考えた問いの中から、教師が考えさせたい問いを提示する。また、その中で全員が考える問いを確認する。 ○絵を読み取る時の見方を確認し、本時の見通しをもたせる。 ○本時は、絵(『風神雷神図』)から読み取れることを交流することを通して、さらに自分のもの見方を広げることがねらいであることをとらえさせ、課題設定につなげたい。	◇プリントや掲示を参考に、前時の学習を想起している。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">絵から読み取ったことを交流し、自分のもの見方を広げよう。</div>			

<p>ふかめる</p> <p>3 2 分</p>	<p>3 本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>4 絵から自分が読み取ったことを付箋紙・ワークシートに書く。</p> <p>○まず、「何をしているのだろう」という問いに対する答えを赤の付箋紙に書きましょう。その後、他の問いに対する答えをワークシートに書きましょう。</p> <p>5 絵から読み取ったことをペアで交流し、自分が読み取ったことから1つ選び、付箋紙に書き、黒板に貼る。</p> <p>・ここは、空の上にかかないか。 ・太鼓のようなもので雷をおこすのではないか。</p> <p>6 絵から読み取ったことを全体で交流する。</p> <p>○「何をしているところ」だと感じましたか。</p> <p>○他の問いに対する答えがどのように書いているか確認しましょう。</p> <p>○「絵のすばらしいところ」を見付けた人は発表してください。</p>	<p>○「①絵の読み取り→②交流→③参考にしたいこと」という本時の学習の流れを視覚化し、見通しをもって課題解決に向かわせたい。</p> <p>○絵の読み取りの際には、「問いに対する答え→どこからそう感じたのか」という手順で読み取らせる。作業が早い児童は、「絵のすばらしいところ」も考えるように指示する。</p> <p>○共通課題については、直接赤の付箋紙に書かせる。書けた児童から黒板に貼らせる。</p> <p>○ペアで交流させることで、自分の考えに自信のない児童に安心感をもたせ、全体交流への意識を高めさせたい。</p> <p>○「絵から想像したこと・感じたこと」は赤の付箋紙に、「絵のすばらしいところ」は青の付箋紙に書かせる。</p> <p>○共通課題について交流させる。同じ問いでも着眼点や想像したこと・感じたことに違いがあることを意識させたい。</p> <p>○他の問いに対する答えは、教師主導で進める。</p> <p>○解説文に生かせることを確認する。</p>	<p>◇着眼点を意識して、自分の力で読み取ったことを書いている。</p> <p>◇絵を指差しながら、相手を意識して自分の考えを伝え合っている。</p> <p>◇話題となっている問いからそれることなく、自分の考えを述べている。</p> <p>◎友達の考えとの相違点を意識して、自分の考えを述べているか。 (発言)</p>
<p>ひろげる</p> <p>8 分</p>	<p>7 本時のふり返りをする。</p> <p>○自分の考えとの違いから、友達のものを見方のよさを見付けよう。そして、自分の表現の参考にしたい見方を、ワークシートに書きましょう。</p> <p>○今日の学習のふり返りを書きましょう。</p> <p>8 次時の確認をする。</p>	<p>○友達の見方のよさに気付かせ、自分のもの見方に取り入れさせるようにする。 (自分のもの見方の広がり)</p> <p>○友達と自分の考えとの相違点に着目させ、友達の見方のよさに関してふり返りを書かせるようにする。</p> <p>○次時は、自分の見方を効果的に伝えるための効果的な表現の工夫を確認し、解説文を書いていくことを確認する。</p>	<p>◎友達の考えとの相違点から、友達の見方のよさに気付いたり、それをこれからの自分の表現に生かそうとしたりしているか。 (ワークシート、発言)</p>

(5) 板書計画

この絵 わたしはこう見る

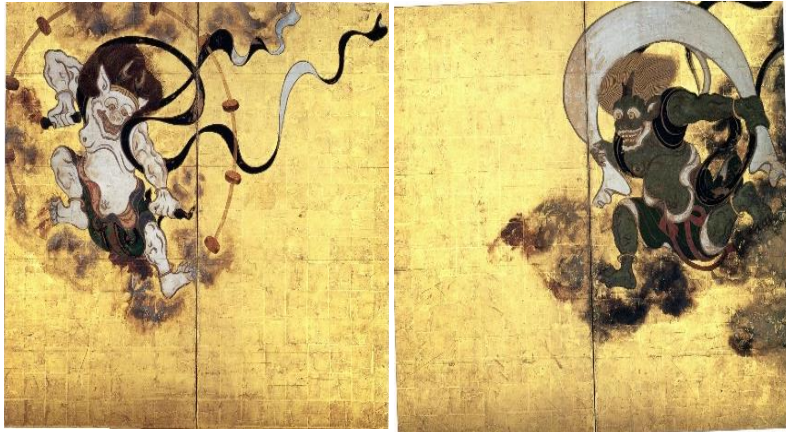
絵から読み取ったことを友達と交流し、
自分のものの見方を広げよう。

【学習の流れ】

①絵の読み取り ↓②交流（ペア・全体） ↓③参考にしたいこと

- ・ 問いに対する答え想像したこと・感じたこと
- ・ 絵のすばらしいところ

☆何をしている（しようにしている）ところだろう。



なぜ体の色がちがう？

年はいくつくらい？

なぜこんな服装？

ここはどこ？

なぜ背景が金色？

なぜ中央に描かない？

この絵で何を伝えたい？

同じ視点でも 人によって様々だとお察しなはらう。

（根拠を明確に！）

絵のすばらしいところ